

平成29年9月29日公表

## 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (北海道)

－ 作況指数は102 (10a 当たり予想収量は560kg) の見込み －

### 【調査結果の概要】

- 北海道における平成29年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は10万6,900haで、うち主食用作付見込面積は、9万8,600haが見込まれる。
- 9月15日現在における水稻の作況指数は102が見込まれる。なお、10a 当たり予想収量は560kgが見込まれる。

図1 作柄表示地帯別作況指数(9月15日現在)

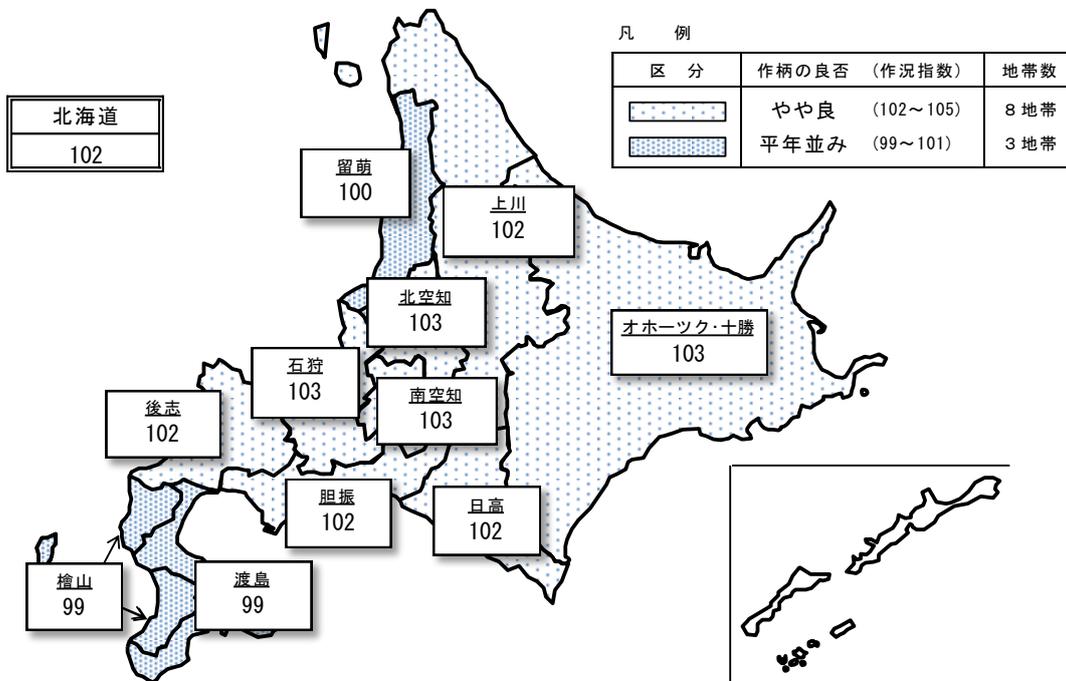


表1 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a 当たり予想収量

区分	作付面積 (青刈り面積を含む。)			10a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅の場合			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 (主食用) ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
北海道	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t	
北海道	106,900	△ 1,400	99	560	543	530	102	98,600	552,200

- 注：1 ①10a 当たり予想収量及び⑥予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅(北海道は1.85mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である(図1においても同じ)。  
 3 ⑤主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)である。

○ この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

## 【調査結果】

### 1 作付面積

平成29年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は10万6,900haで、前年産に比べて1,400ha減少した。

なお、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は9万8,600haで、前年産に比べて400haの減少が見込まれる。

### 2 作柄概況

- (1) 全もみ数は、6月が低温・日照不足で経過したものの、7月には天候が回復したことから「平年並み」となった。
- (2) 登熟は、8月上旬が多照で経過したことから開花・受精が良好であったこと、8月下旬から9月中旬にかけて低温で経過したものの、日照時間はおおむね平年並み以上に確保され粒の肥大及び充実は順調であると見込まれることから「やや良」と見込まれる。
- (3) この結果、作況指数102（10a当たり予想収量560kg）が見込まれる。

表2 平成29年産水稲の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量  
（作柄表示地帯別）

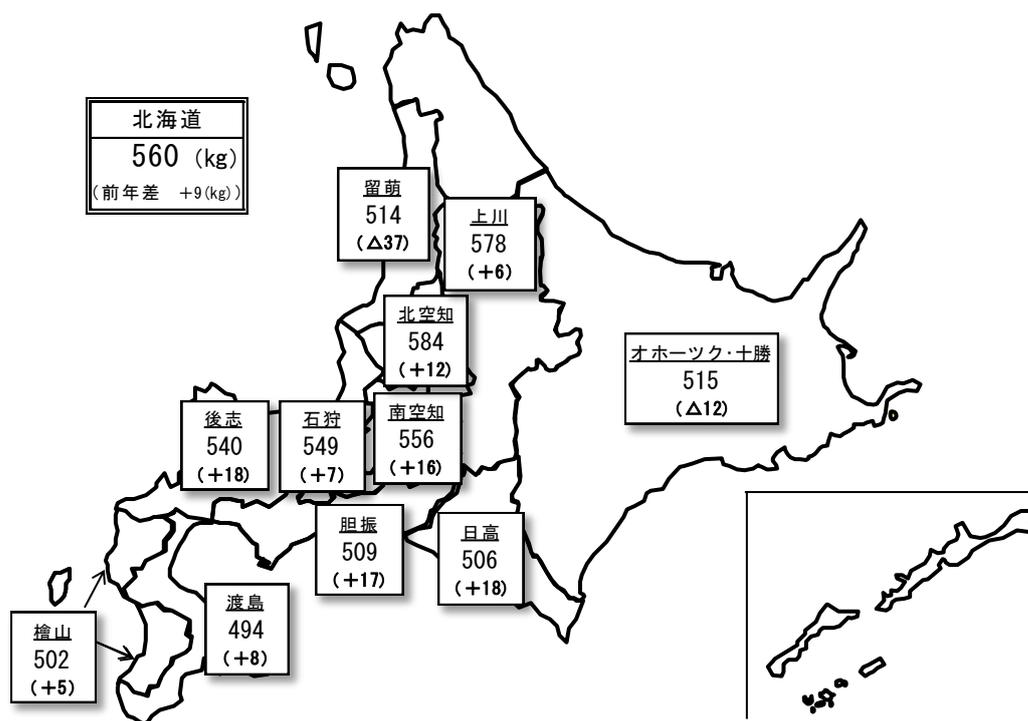
区 分	作付面積(青刈り面積を含む。)			10a当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅の場合			平 年 比 較			
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	穂 数 の多少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の多少	登 熟 の良否
		対 差	対 比								
北 海 道	106,900	△ 1,400	99	560	543	530	102	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
石 狩	7,280	△ 50	99	549	529	513	103	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
南 空 知	19,600	△ 400	98	556	533	519	103	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良
北 空 知	27,300	△ 300	99	584	567	550	103	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
上 川	30,100	△ 200	99	578	562	552	102	少 ない	多 い	平年並み	やや良
留 萌	4,310	△ 80	98	514	500	501	100	少 ない	平年並み	やや少ない	やや良
渡 島	2,990	△ 20	99	494	470	473	99	やや少ない	多 い	平年並み	やや不良
檜 山	4,060	△ 120	97	502	483	487	99	少 ない	多 い	やや多い	やや不良
後 志	5,040	△ 60	99	540	521	511	102	少 ない	多 い	平年並み	平年並み
胆 振	3,830	△ 70	98	509	492	481	102	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
日 高	1,370	△ 50	96	506	488	477	102	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
オホーツク・十勝	1,030	△ 30	97	515	492	478	103	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 作付面積（青刈り面積を含む。）については、四捨五入の関係で計と内訳が一致しないことがある。

図2 作柄表示地帯別10a当たり予想収量(9月15日現在)



注：10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

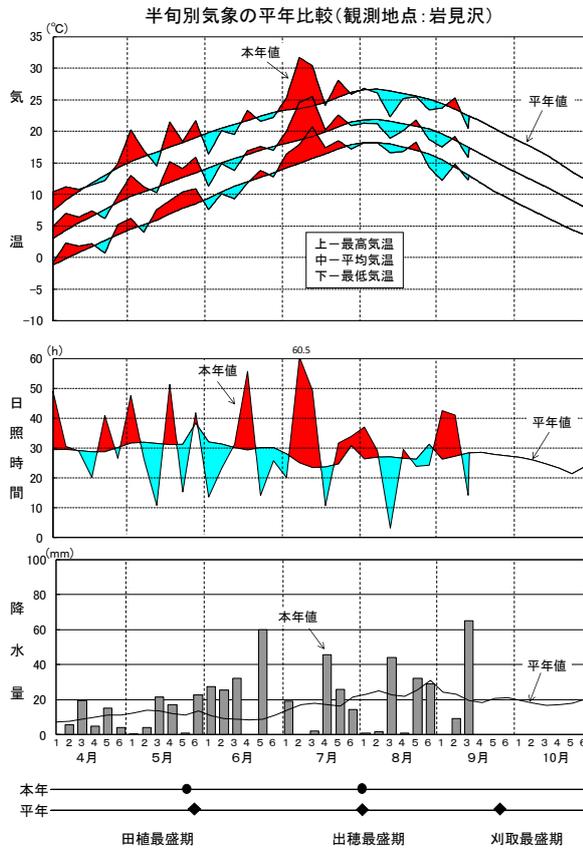
◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

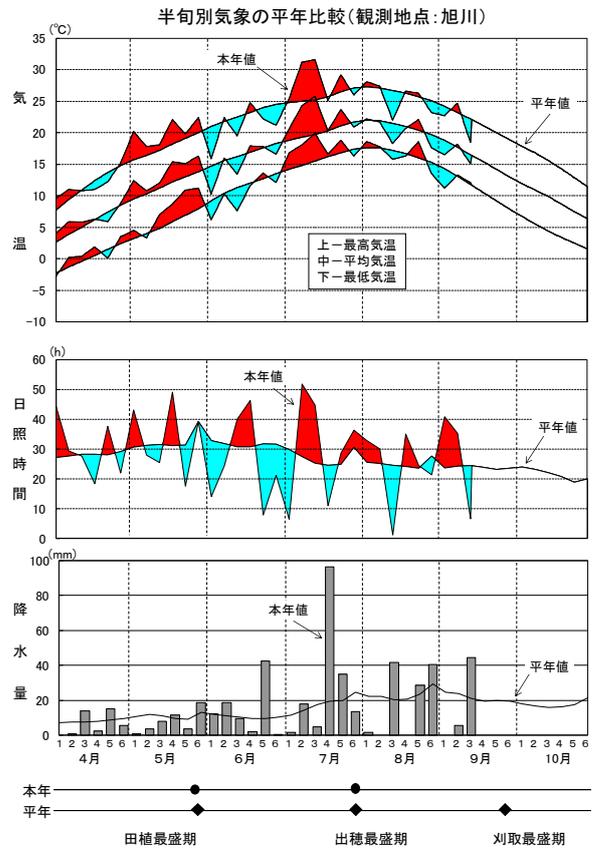
# 【気象経過】

## 気象経過と生育ステージ

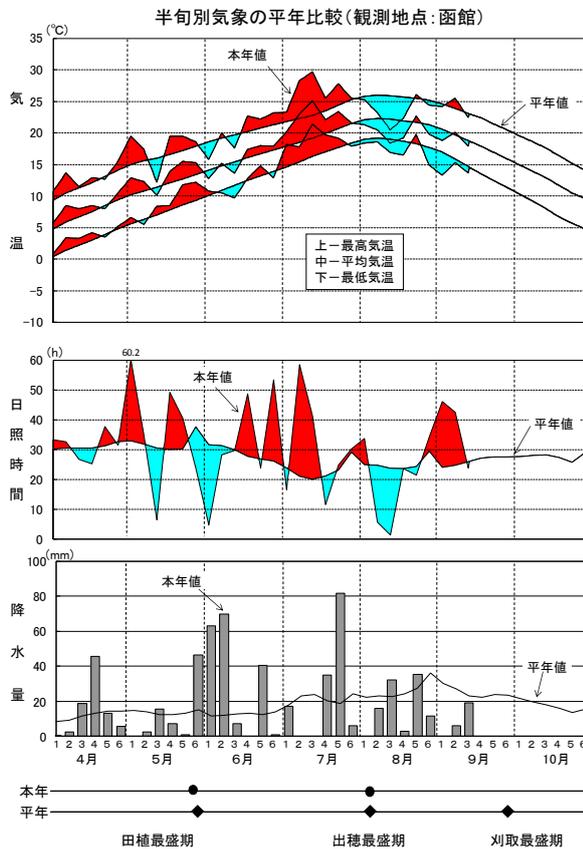
### 南空知



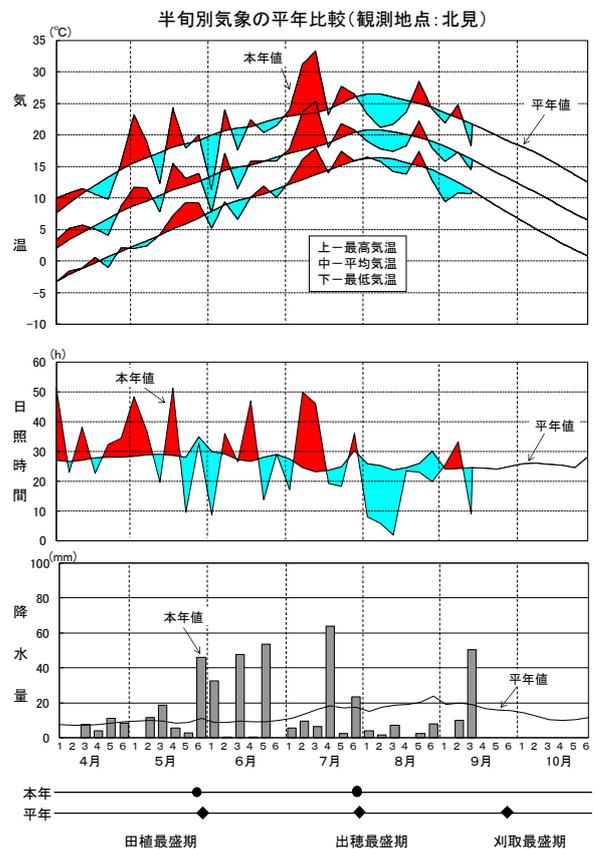
### 上川



### 渡島



### オホーツク・十勝



資料: 「アメダス気象データ」

## 【累年データ】

### 水稲の年次別推移(北海道)

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	作況指数	参 考	
	子実用					主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)
	ha	ha	kg	t		ha	t
平成 20 年産	114,600	114,600	565	647,500	106	110,900	626,600
21	114,500	114,400	475	543,400	89	112,500	534,400
22	115,100	114,600	525	601,700	98	112,400	590,100
23	114,000	112,900	562	634,500	105	109,100	613,100
24	113,200	112,000	572	640,600	107	108,700	621,800
25	112,900	112,000	562	629,400	105	107,000	601,300
26	112,100	111,000	577	640,500	107	103,500	597,200
27	110,500	107,800	559	602,600	104	100,100	559,600
28	108,300	105,000	551	578,600	102	99,000	545,500
29 (見込み)	106,900	..	560	..	102	98,600	552,200

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 10 a 当たり（予想）収量及び（予想）収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。ただし、平成29年産の生産数量目標の外数として取り扱う米穀等の作付面積は、平成29年9月15日現在の数値である。

4 作況指数は、平成27年産からは過去5か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 表中の「..」は未発表であることを示している。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

### 2 調査対象数

- (1) 作付面積調査  
標本単位区：1,591単位区
- (2) 作柄概況調査  
作況標本筆：630筆 作況基準筆：28筆

### 3 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

### 4 調査期日

- (1) 作付面積調査：平成29年7月15日現在
- (2) 作柄概況調査：平成29年9月15日現在

### 5 調査・集計方法

- (1) 作付面積調査  
職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行った。なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。
- (2) 作柄概況調査  
職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

## 6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。  
 なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、過去5か年間に北海道の農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

## 7 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯は、下表のとおりである。

作柄表示地帯	対 象 地 域
石狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内の町村
南空知	夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北空知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町
上川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内の町村、宗谷総合振興局管内の町村
留萌	留萌市、留萌振興局管内の町村
渡島	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内の町村
檜山	檜山振興局管内の町村
後志	小樽市、後志総合振興局管内の町村
胆振	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内の町村
日高	日高振興局管内の町村
オホーツク・十勝	釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内の町村、十勝総合振興局管内の町村、釧路総合振興局管内の町村、根室振興局管内の町村

## 8 利用上の注意

(1) 統計数値については、以下の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例					
四捨五入する前	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した後	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2) 表中の「△」は、減少したものを示す。

## 9 その他

本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

### 【ホームページ掲載案内】

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページ中の農林水産統計公表資料（北海道）に掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/h29kouhyou.html>

### お問合せ先

- ◎本統計調査結果について  
農林水産省 北海道農政事務所  
統計部 生産流通消費統計課  
電話：011-330-8820（直通）
- ◎農林水産統計全般について  
農林水産省 北海道農政事務所  
統計部 統計企画課  
電話：011-330-8818（直通）  
FAX：011-520-3054（共通）



**政府統計**

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>